

大学生のいじめ/いじめられ経験

桂田恵美子*

いじめの定義を明確にした上で、大学生 100 人 (男: 34, 女: 65, 性別不明: 1) にいじめ・いじめられ体験、いじめの傍観経験を聞いた。今までにいじめ・いじめられた経験がある者はそれぞれ 30%以上にのぼった。本調査で明らかにされたいじめの実態は、「ジャンプいじめりポート」内容分析 (桂田, 1998) の結果を裏付けるものであった。また、本調査では多くのいじめが一对複数という形で起こっていることが明らかにされ、いじめの状況自体が異質排除の要素を強めていることが示唆された。更に、本調査では、いじめ傍観者の多くは、その当時、いじめに介入せず、そのことを今、後悔していることが明らかになった。そうした結果から、行動する傍観者を育てて行くことが、いじめの深刻化を防ぐ一つの手段であることが示唆された。

Presenting a clear definition of bullying at the beginning of the questionnaire, 100 (34 males, 65 females, 1 unknown) college students were asked about their experiences of bullying, being bullied, and observing bullying. More than 30% of them have bullied, and more than 30% have been victims of bullying. Actual conditions of bullying revealed in this study, such as time of occurrence, types, and reasons of bullying, confirmed the results of a previous study (Katsurada, 1998). An additional finding of this study was that in a majority of the cases of bullying, many perpetrators bullied one victim. Also, in a majority of the cases, victims and perpetrators were of the same sex and age group. This situation emphasizes the ostracizing nature of Japanese bullying. The results also indicated that many observers did not do anything when they observed bullying, and that they regretted it. From this result, it is suggested that educating students to be active observers who can help victims of bullying would be effective for preventing serious victimization by bullying.

問題

「学級崩壊」、「登校拒否」、「いじめ」など、現在の学校教育が抱える問題は多々ある。その中でも、「いじめ」は被害者を自殺におい込んだり、登校拒否に至らしめたりと深刻な問題となっている。つい最近起こった、17歳の少年によるバスジャック事件の背景にも、いじめがあったことが報道され、いじめの影響には測り知れないものがある。しかし、いじめ問題がマスコミで大きく取り上げられ、いじめに対する問題意識が高まり、教育現場での対応がすすんだせいか、いじめの発生件数は近年減少傾向にある (Fig. 1 参照)。とは言っても、明確にいじめに関連しているとされる自殺は 1995 年以降も毎年 10 件前後あり (山崎, 1998)、依然としていじめは存在し、いじめによる自殺者は跡を断たない。また、筆者が行った文献調査によると日本と海外のいじめの比較では、日本のいじめの方が多様化し深刻であるということが示唆された (桂田, 1999)。日本のいじめの多様さ、深刻さは、「ジャンプいじめりポート」の内容分析でも明らかにされた (桂田, 1998)。しかし、「ジャンプいじめりポート」は、全国から寄せられたいじめ・いじめられ体験者のインタビューと手紙を集成したものであり、そこから明らかにされたいじめの実態には限界があった。例えば、手紙は全て体験者からのものであるから、全体的にどの程度の割合でいじめを経験しているのか、それぞれが「いじめ」と言っているいじめ

の定義に差異があるのではないか等が明確にされなかった。そこで、本研究では、いじめの定義を統一した上で、それぞれのいじめ体験について大学生を対象に質問紙調査をした。現今の大学生が中学・高校時代を過ごした時期は、いじめの発生件数が落ち着いた1986年以降（Fig. 1参照）であるので、大学生を対象とすることによって、いじめがある程度落ち着いた時期の実態を明らかにすることができる。また、大学生を対象としたのは、過去のいじめ・いじめられ経験を現在どのように受け止めているのかについても調査する為である。更に、質問紙の内容は、「ジャンプいじめりポート」内容分析の結果（桂田，1998）を基礎にして作成されたので、それとの比較検討も目的としている。

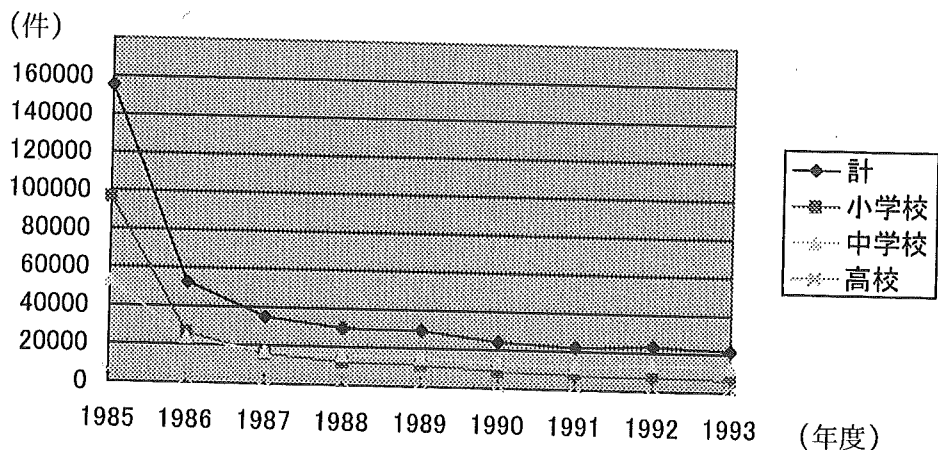


Figure 1 いじめの発生件数

（毎日新聞社会部編「総力取材いじめ事件」，1995より引用）

方法

被験者

宮崎国際大学の学生100名（男：34名、女：65名、性別不明：1名）が質問紙に答えた。学生の年齢幅は18歳から30歳で、平均年齢は20.1歳（SD=1.8）であった。質問紙は1997年の春学期に授業の一部の時間を使って集められた。

指標

質問紙のはじめにいじめの定義を明記した。いじめの定義としては、「いじめとは、ある特定の一人に、他の一人ないしは複数の者が繰り返し、あるいは、よってたかって精神的・身体的苦痛を与え続ける比較的長期にわたる屈曲した攻撃行動を伴った、精神的または身体的圧迫である。具体的には、殴る、蹴る等の肉体的攻撃の他に、仲間はずれ、無視、ひやかし、から

かい、おどかし、持ち物をかくす、着ている物を脱がす等の心理的攻撃を含む。」という鈴木(1995)の定義を引用した。

質問紙(付録参照)は、いじめ経験、いじめられ経験、いじめ傍観経験を聞く3つの部分から成っている。それぞれ経験があると答えた者には、引き続き、いままで経験したいじめで最もひどかったものについて聞いた。質問事項としては、いじめ・いじめられが起こった時期、いじめ・いじめられた相手、方法、理由・原因、そのいじめはどのようにして終わったか、いじめ・いじめられの経験はその後の人間関係、友達関係に影響していると思うかどうかを聞いた。方法、理由・原因、いじめの終わり方、その後の人間関係への影響に関しては、自由回答方式とした。その他、いじている時の気持ち(優越感や罪悪感)を強制選択式で聞いた。いじめられ経験に関しては、その他に、いじめられた時どのように対処したか、親・先生の反応や対処のしかたについて自由回答方式で答えてもらった。また、いじめられている時の自殺思考についても聞いた。いじめを見たと答えた者に対する質問には、いじめへの介入についての質問(いじめを止めようとした、誰かに話した)を加えた。最後に、いじめに関するコメントを求めた。

分析

いじめの方法、理由・原因については、先行研究の「ジャンプいじめりポート」内容分析(桂田, 1998)に使用した森田・清水(1986)の分類法を適用した。森田らの分類法では、いじめを心理的と物理的(身体的)なものに分け、更に、遊び的要素が含まれるか否かでいじめとふざけに分けている。心理的いじめは仲間はずれ、無視、悪口等、心理的ふざけは持ち物を隠す、嫌がることをする、小暴力、物理的いじめは一方的になぐる、お金や物をとりあげる、おどす、物理的ふざけは着ているものを脱がす、性的はずかしめ等である。いじめた・いじめられた理由は、6つの分類法: ①性格・行動的理由—暗い性格、おとなしい、まじめ、目立つ、はつきりしている、成績が悪い、スポーツ音痴、いじめられている者を助けた等、②身体的理由—太っている、小さい、天然パーマ、障害がある、病気がち等、③環境的理由—転校生、留年、部活での人間関係、家が貧乏、親がアルコール中毒等、④ストレス発散—いじめが楽しい、単なる遊び(ゲーム)、やつあたり、自分がいじめられたので等、⑤妬み—成績が良い、先生に気に入られている、⑥特別な理由無し—ムシが好かない、気に入らない、理由がわからない、を適用した。この6つの分類に当てはまらないものはその他とした。

結果

いじめたことがある、いじめられたことがある、いじめを見たことがあると答えた者は、それぞれ、36人、39人、70人で、いじめられた経験にのみ性差が見られた($\chi^2(1, N=100)=5.46$,

$p < .05$)。いじめられた経験は圧倒的に女性の方に多く、いじめられた経験があると答えた者の80%は女性であった。Fig.2が示すように、いじめ・いじめられた経験もいじめを傍観した経験もないと答えた者は17人で、他の83人は何らかの形でいじめを経験していた。しかし、いじめた経験のみや、いじめられた経験のみの者は少なく(全体の7%)、多くの者は、いじめ・いじめられのどちらも経験していたり、いじめ・いじめられ経験と共に、他の人のいじめを見たことがあったりしている(全体の46%)。それぞれの経験の内容については、以下にその経験別に報告する。

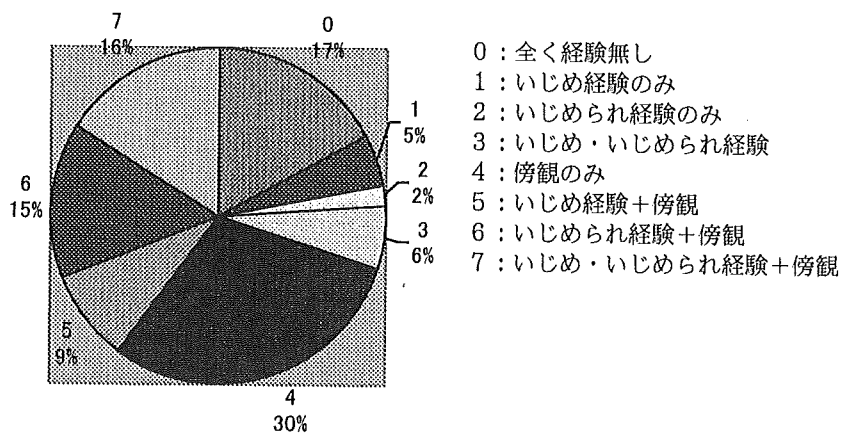


Figure 2. いじめ、いじめられ経験といじめ傍観経験

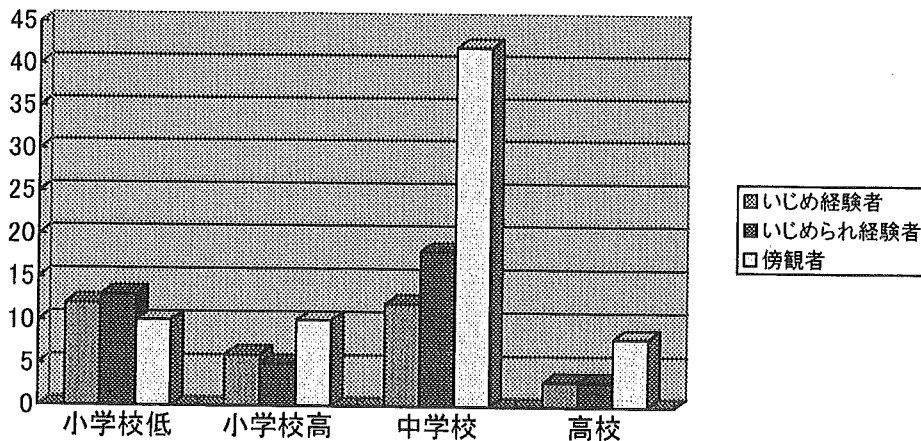


Figure 3. いじめ・いじめられ経験の時期

いじめ経験 (N = 36)

いじめの時期は、小学校低学年と中学校時代がそれぞれ36%を占め、小学校高学年(18%)を含めると80%のいじめは小・中学校時代に起こっていたことになる(Fig.3 参照)。いじめた相手としては、圧倒的に同級生が多く(97%)、男の子は男の子をいじめ、女の子は女の子をいじめるといったパターンが示された($\chi^2(1, N = 36) = 10.89, p < .01$)。一人でいじめたと答えた者は14%で、3~6人でいじめた者が45.7%、学級全体でいじめたという者が約17%で、ほとんどのいじめは一对複数という形で起こっていることがわかる。また、そのいじめがどのくらい続いたかという質問に対しては、20%が1ヶ月未満で、最も長い期間としては、3年と答えた者が10%いた。1年以上続いたと答えた者は33%であった。

いじめた方法(いじめの形態)では、無視や仲間はずれなどの心理的いじめが最も多く(77%)、ついで、嫌がらせをするなどの心理的ふざけ(23%)、殴るなどの物理的いじめ(14%)で、物理的ふざけに分類される、性的はずかしめ等を報告する者は誰もいなかった。これらのいじめの形態において、男女間に有意差が見られた($\chi^2(2, N = 40) = 7.25, p < .05$)。心理的ふざけを報告する者は女性に多く、物理的いじめを報告しているのは全て男性であった。いじめた理由としては、多くの者が特別な理由がないと答えており(41%)、次に多かった理由としては、相手の性格・行動的理由(25%)であった。

いじめがどのような形で終わったかという質問に対しては、34%が「いつの間にか、自然に終わった」、31%が転校や卒業などの理由で終わったと答え、22%が先生や親の介入によって終わったと答えた。また、34%がいじめている時、楽しいと感じたと答え、41%が優越感を感じたと答えている。しかし、同時に、59%がいじめている時、罪悪感を感じたと答えており、いじめる者が複雑な感情を持っていることを伺わせる。優越感や罪悪感に関しては、いじめられた経験があるか否かの差はなかったが、いじめられた経験が無い者が有る者より、いじめている時に楽しいと感じたと報告する傾向にあった($\chi^2(1, N = 35) = 3.51, p = .079$)。また、いじめた経験はその後の友達関係・人間関係に影響しているかどうかという質問には、52%が影響していると答え、どのように影響しているかという問いには、「友達関係が悪くなる」や「今まで通りにいなくなる」などのいじめの相手との関係が悪くなったことを報告する者や、「いじめられたことがあると言った人の目が見られないことがある」や「どんな人間にも優劣はないと感じた」などの反省の意味が濃い答えも報告されていた。

いじめられ経験 (N = 39)

いじめられた時期は、いじめと同様に、小学校低学年(33%)と中学校(46%)が多かった(Fig.3 参照)。そして、多くは同級生にいじめられ、ここでもやはり、同性にいじめられるというパターンが示された($\chi^2(2, N = 39) = 21.21, p < .001$)。一人にいじめられたと報告する者は、17.6%で、残りは二人以上の複数の相手にいじめられ、ここでも、一对複数のいじめが多いこ

とを示している。いじめられた期間は、1ヶ月未満が26.5%で、3~6ヶ月が32.3%、一番長い期間は2年であった(5.9%)。

どのような方法でいじめられたか、どうしていじめられたかという質問に対しては、いじめ経験と同じような結果が得られた。方法(形態)としては、心理的いじめが一番多く、心理的ふざけ、物理的いじめの順で、物理的ふざけを報告する者は誰もいなかった(Fig. 4 参照)。

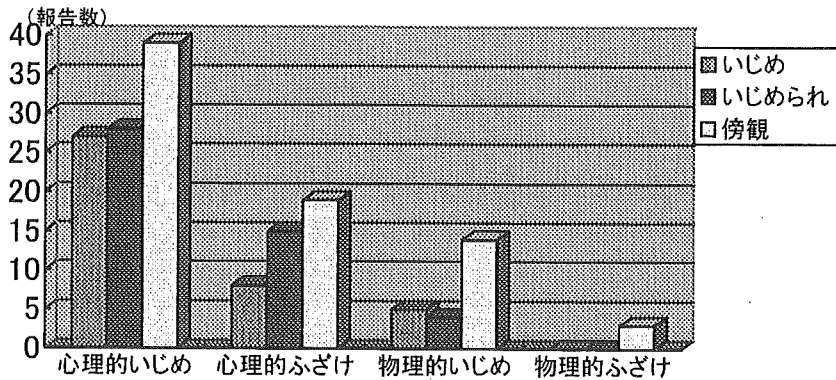


Figure4. いじめの形態報告数

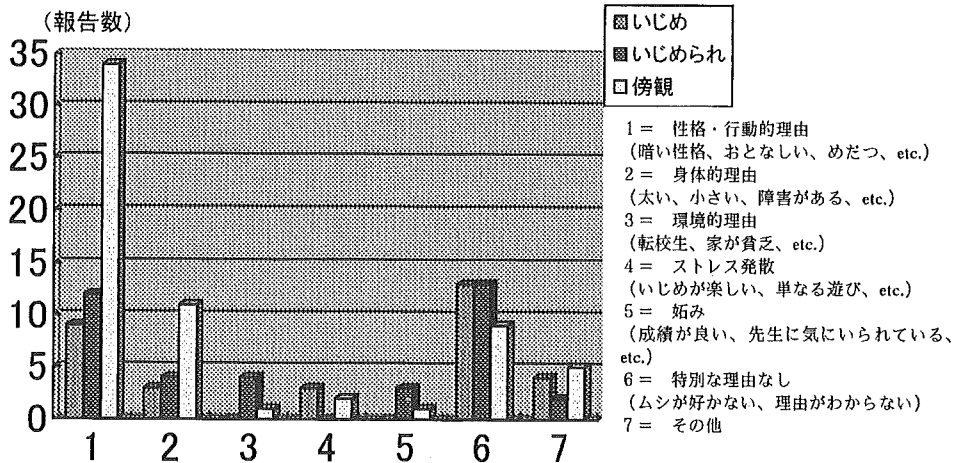


Figure5. いじめの理由

ここでもやはり、いじめの方法における男女差が見られた ($\chi^2(2, N=47)=21.43, p<.001$)。心理的いじめ・ふざけを報告する者はほとんど女性で、物理的いじめを報告する者は全て男性であった。いじめられた理由についても、一番多かった答えは「特別な理由がない」で、次に自分の「性格や行動」が理由に挙げられた(Fig. 5 参照)。

明らかになったいじめの実態は、「ジャンプいじめリポート」内容分析（桂田, 1998）の結果を裏付けるものであった。例えば、いじめの時期は小・中学校時代に集中し、いじめの形態も先行研究と同様に、心理的いじめ、心理的ふざけ、物理的いじめ、物理的ふざけの順に多く報告され、いじめの形態における男女差も発見された。本調査で更に明らかになったことは、多くのいじめが一对複数（被害者対加害者）という形で、同性の同級生間で起こっているということである。これは、いじめの理由に異質排除の要素が多分に含まれていることを以前指摘したが（桂田, 1998）、いじめが起こっている状況自体がその要素を助長していると思われる。つまり、性質を同じくする者（同年齢、同性）の間では、他者との相違が明らかにされ易く、少しでも異質性が発見されれば、すぐにいじめの対象となることを示していると思われる。

いじめの理由に関して、いじめた者もいじめられた者も、「特に理由はない」と答える者が最も多いという結果は興味深い。これは、回顧的回答であるため、あまり良く覚えていないためにこのような回答になったとも考えられる。しかし、傍観者としては、いじめられる側の性格・行動的理由や身体的理由を挙げる者が多かったことから、経験者の回答が必ずしも忘れた結果というわけではないと思われる。やはり、いじめの当事者としては、自分が何故いじめたのか、いじめられたのか、はっきりしない、明確な理由など無いというのが本当のところなのかもしれない。こうした動機・理由がハッキリしないのが現代の「いじめ」の一つの特徴だと指摘する者もいる（野口, 1998）。

本調査の結果も、いじめが深刻な問題であることをあらわしている。いじめられた者の70%近くが、いじめられている当時、心理的な登校拒否をおこしたり、病気になったりしたことを報告している。更に、いじめられた者の16%が自殺を試みたり、自殺を考えたことがあると答えている。この数値は、「ジャンプいじめリポート」内容分析（桂田, 1998）で報告された割合よりも高いものである。こうした報告から、いじめられている小・中学生の苦悩を推し量ることができる。只、本調査の結果では、80%以上の者がいじめられた時、友達や親にそのことを話したと答えており、それぞれの反応も、話しを聞いてくれたなどの肯定的なものが多かった。これは、いじめられていることを誰にも言わずに死んで行く子が報道される中、子どもはいじめられていることを中々言えないものだという通念からすると、矛盾する数値である。調査対象が宮崎国際大学の学生だけであり、人数も多くはないため、この結果を一般化することはできないが、本調査で質問紙に答えた者は皆、いじめを生き抜いてきた者であることを考えれば、いじめられている時、話せる友達や親がいるということがいじめの救いとなっていることは疑えない。

しかし、本調査の結果は、いじめられている本人が自ら友達・親に話すケースは多かったものの、傍観者が進んで助けの手を差し伸べるケースはあまり多くはなかった（傍観者でいじめに介入したのは36.7%）。このことは、一つの問題を提起している。いじめにあった時、自分

から友達や親に話せる者は救われるが、そうでない者は一人で悩み、いじめはより一層深刻なものとなる。そうした時に、傍観者の介入は大きな助けとなるに違いないが、実際には、自分がいじめられることを恐れて誰も介入しない。しかし、そうした傍観者で当時何もしなかった者の73%が、現在罪悪感を持っていると言う。こうした傍観者を訓練し、いじめに介入できる者を育てていくことが、いじめの深刻化を防ぐ一つの手段となりうるだろう。実際、矢部(1997)は、沈黙の傍観者を行動する傍観者へ育てるアメリカの"CARE"プログラムなるものを紹介している。こうしたプログラムの導入を日本の小・中学校も試みる必要があるように思われる。

最後に、いじめに対するコメントの中で、何人かの者は「いじめはなくなる」と考えており、これは経験者の意見であるだけに、無視できないものがある。また、多くのいじめがハッキリした理由もなく始まり、自然に終わることを考えれば、いじめは子どもの発達段階で起こらざるをえない現象であるとも言える。しかし、だからと言って、放っておける問題でもない。確かに、いじめを完全に撲滅することは不可能かもしれないが、減らすことは可能だと思う。先に述べた、行動する傍観者を育てることもその一つの方法であるが、いじめが起こった時の教師や親の具体的な対応の仕方について、研修・訓練を積み重ねることも忘れてはいけないことであろう。

引用文献

- 古市裕一・岡村公恵・起塚孝子・久戸瀬敦子. (1986). 小・中学校における「いじめ」問題の実態といじめっ子・いじめられっ子の心理的特徴. *岡山大学教育学部研究集録*, 71, 175-194.
- 桂田恵美子. (1998). 「ジャンプいじめりポート」内容分析, *比較文化 (宮崎国際大学研究紀要)*, 4, 149-161.
- 桂田恵美子. (1999). いじめ研究：海外と日本との比較, *比較文化 (宮崎国際大学研究紀要)*, 5, 167-180.
- 毎日新聞社会部編. (1995). 総力取材いじめ事件. 東京：毎日新聞社.
- 森田洋司・清水賢二. (1986). いじめ：教室の病い. 東京：金子書房.
- 森田洋司・滝充・秦政春・星野周弘・若井彌一. (編著). (1998). 日本はいじめ：予防・対応に生かすデータ集. 東京：金子書房.
- 野口清人. (1998). 見えてきた「いじめ」克服の方法. 野口清人・折出健二・堀尾輝久 (著), 信州の教育と自治研究所・あいち県民教育研究所・にいがた県民教育研究所・民主教育研究所 (編). *いじめ自殺：子を亡くした親たちのメッセージ* (pp.39-145). 京都：かもがわ出版.
- 鈴木康平. (1995). 学校におけるいじめ. *教育心理学年報*, 34, 132-142.
- 矢部武. (1997). *アメリカ発いじめ解決プログラム*. 東京：実業之日本社.
- 山崎鎮親. (1998). この3年間のいじめ自殺事件. 野口清人・折出健二・堀尾輝久 (著), 信州の教育と自治研究所・あいち県民教育研究所・にいがた県民教育研究所・民主教育研究所 (編). *いじめ自殺：子を亡くした親たちのメッセージ* (pp. 178-188). 京都：かもがわ出版.

付録：質問紙

「いじめ」に関する調査

「いじめ」の定義：
 いじめとは、ある特定の一人に、他の一人ないしは複数の者が繰り返し、あるいは、よつたかつ精神・身体的苦痛を与え続ける比較的長期にわたる屈曲した攻撃行動を伴った、精神的または身体的圧迫である。具体的には、殴る、蹴る等の肉体的攻撃の他に、仲間はずれ、無視、ひやかし、からかひ、おどかし、持ち物をかくす、着ている物をぬがす等の心理的攻撃を含む。

上の定義を頭に入れたうえで、以下の質問に答えて下さい。

I. 今までに誰かをいじめた事がありますか。 はい いいえ

*「はい」と答えた人は、次の(A)から(K)の質問に答えてください。複数回いじめた経験のある人は、最もひどかつたいじめについて述べて下さい。

*「いいえ」と答えた人は、(A)から(K)をとばし、IIの質問に答えて下さい。

(A) 最もひどかつたいじめはいつの事ですか。()には、その学年を書いて下さい。

幼稚園時代 小学校時代 () 中学校時代 () 高校時代 ()

(B) いじめの相手はだれですか。

a) 男 女

b) 同級生 下級生 上級生 その他

(C) 一人でいじめましたか。()には、人数を書いて下さい。

一人 複数()

(D) どの様な方法でいじめましたか。詳しく書いて下さい。

(E) そのいじめはどの位続きましたか。

(F) どうして(理由・原因)いじめましたか。詳しく書いて下さい。

(G) そのいじめはどの様にして終わりましたか。詳しく書いて下さい。

- (H) いじめている時、楽しいと感じましたか。 はい いいえ
- (I) いじめている時、優越感を感じましたか。 はい いいえ
- (J) いじめている時、罪悪感を感じましたか。 はい いいえ
- (K) いじめた経験は、その後の友達関係・人間関係に影響していると思えますか。「はい」と答えた人はどの様に影響しているか詳しく書いて下さい。

はい _____
 いいえ _____

II. 今までに誰かにいじめられたことがありますか。 はい いいえ

*「はい」と答えた人は、次の(A)から(M)の質問に答えてください。複数回いじめられた経験のある人は、最もひどかつたいじめについて述べて下さい。

*「いいえ」と答えた人は、(A)から(M)をとばし、IIIの質問に答えて下さい。

(A) 最もひどくいじめられたのはいつの事ですか。()には、その学年を書いて下さい。

幼稚園時代 小学校時代 () 中学校時代 () 高校時代 ()

(B) いじめたのは誰ですか。

a) 男 女 両方

b) 同級生 下級生 上級生 その他 _____

(C) いじめた人は何人ですか。()には、人数を書いて下さい。

一人 複数()

(D) どの様な方法でいじめられましたか。詳しく書いて下さい。

(E) そのいじめはどの位続きましたか。

(F) どうして(理由・原因)いじめられたかと思えますか。詳しく書いて下さい。

(G) いじめられた時あなたは誰かにその事を話しましたか。 はい いいえ

*「はい」と答えた人：

a) 誰に話しましたか。 _____

b) その結果、話した相手はどのような行動をとりましたか。話した相手が復讐

の場合は、各々について書いて下さい。

o) 話した事はいじめをやめさせるのどの位役立つと思いますか。

全例	非非に
役立った	
1	2
3	4
5	

“はいえ”と答えた人(誰にも話さなかった人)：理由はどうしてですか。

(田) 親はあなたがいじめられている事に気がついていましたか。はい いいえ

“はい”と答えた人：

a) 親が気がついたのは

自分が言う前から 自分が言ったから 友達と言ったから その他

b) 親は、そのいじめに対して何をしましたか。

(I) 先生はあなたがいじめられている事に気がついていましたか。はい いいえ

“はい”と答えた人：

a) 先生が気がついたのは

自分・親が言う前から 自分・親が言ったから 友達と言ったから その他

b) 先生は、そのいじめに対して何をしましたか。

(J) そのいじめはどの様にして終わりましたか。詳しく書いて下さい。

(K) いじめられている時、なにか身体的・精神的影響がありましたか。はい いいえ
“はい”と答えた人：どの様な影響でしたか。詳しく書いて下さい。

(L) いじめられている時、自殺を考えた事がありますか。

自殺を試みた事がある 自殺を考えた事がある 試みた事も考えたことも無い

(M) いじめられた経験は、その後の友達関係・人間関係に影響していると思いますか。

“はい”と答えた人はどの様に影響しているかも詳しく書いて下さい。

はい

いいえ

III 今までに誰かがいじめにあってのを見た事がありますか。はい いいえ

* “はい”と答えた人は、次の(A)から(I)の質問に答えてください。複数回いじめを見た経験のある人は、最もひどかったいじめについて述べて下さい。

* “はいえ”と答えた人は、(A)から(I)をとばし、IVの質問に答えて下さい。

(A) 最もひどくいじめを見たのはいつの事ですか。()には、その学年を書いて下さい。

幼稚園時代 小学校時代() 中学校時代() 高校時代()

(B) いじめていたのは誰ですか。

a) 男 女 両方

b) 同級生 下級生 上級生 その他

(C) いじめていた人は何人ですか。()には、人数を書いて下さい。

一人 複数()

(D) いじめられていたのは誰ですか。

a) 男 女

b) 同級生 下級生 上級生 その他

(E) どの様な方法でいじめを止めていましたか。詳しく書いて下さい。

(F) そのいじめはどの位続きましたか。 _____

(G) いじめられていた人はどうして(理由・原因)いじめられたと思いますか。詳しく書いて下さい。

(H) その時あなたはそのいじめに対して何かをしましたか。 はい いいえ

“はい”と答えた人:

a) いじめを止めようとしたか。 はい いいえ

“はい”と答えた人: その結果、どうなりましたか。詳しく書いてください。

b) そのいじめについて誰かに話しましたか。 はい いいえ

“はい”と答えた人:

i) 誰に話しましたか。 _____

ii) その結果、話した相手はどのような行動をとりましたか。話した相手が複数の場合は各々について書いて下さい。

iii) 話した事はいじめをやめさせるのにどの位役立ったと思いますか。

益然 非常に

役立たなかった 役立った

1 2 3 4 5

“はい”と答えた人(何もしなかった人): その理由は どうしてですか。

a) その時、何もしなかった事に罪悪感を感じましたか。 はい いいえ

b) 今振り返ってみて、何もしなかった事に罪悪感を感じますか。 はい いいえ

(I) そのいじめはどの位続きましたか。詳しく書いてください。

VI 大学生になってから、誰かをいじめたり、誰かにいじめられたり、あるいは、誰かがいじめられているのを見た経験がありますか。 はい いいえ
“はい”と答えた人: その経験について詳しく書いて下さい。

いじめについて何かコメントがあったら書いて下さい。

年齢: _____ 性別: 女性 男性

学年: 大学1年 大学2年 大学3年 大学4年 その他 _____

ご協力ありがとうございました。